



皆様の「快適な暮らし」のヒントに

すまい造りメール

第266号 2024年5月号

SINCE 2002.4.1.

発行日令和6年4月26日
発行元有限会社佐野工務店
〒237-0068
横須賀市追浜本町1-25
TEL 046(865)4010
FAX 046(865)6139
http://www.sano-knet/
info@sano-knet

♪My little hometown「追浜駅前第2街区」

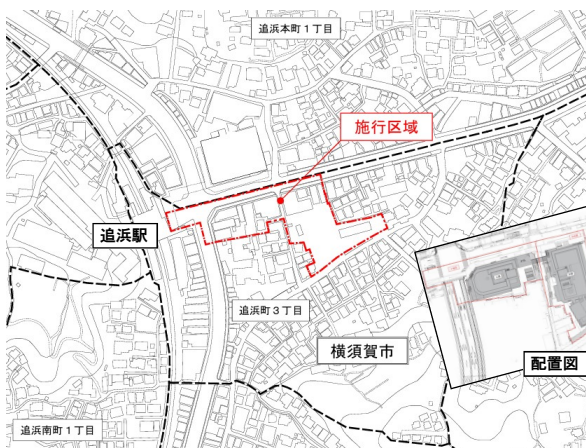


龍が握っている玉は、思いや願いが叶う神聖な玉（如意宝珠）と言われています。感謝の気持ちを忘れずに自分なりのドラゴンボールを探しに行きましょう。

♪つかもうぜ！DRAGONBALL



地域密着型バスタ、国道357号の延伸など追浜駅周辺の新しいまちづくりの計画の中で、追浜駅前の再開発事業（追浜駅前第2街区第一種市街地再開発事業）が動き出しそうです。三菱地所レジデンスのホームページによると、2棟の高層建築物は、337戸（予定）の共同住宅をはじめ、店舗、図書館、公共駐輪場が整備され、駅や建築物同士を連絡する立体歩行者通路等が整備されるようです。



2007年5月 準備組合設立
2016年6月 事業協力者の決定
2021年2月 都市計画決定
2023年5月 再開発組合設立認可公告
2025年5月 着工予定
2028年3月 竣工予定



高層ビルの外観イメージ（神奈川新聞より）

介護保険制度を利用した住宅改修工事を担当させていただいたお住まいをご紹介します。

階段に手すりを設置する工事です。2階に寝室やベランダがあるため、頻繁に利用するので安全に昇降したいというご要望です。

「前略 おせわ様。その後いかがお過ごしですか。」

最近、体力の衰えからか階段の昇降に「怖さ」を感じるようになったそうです。廻り階段の場合は、外側のコーナー部分を含め連続性のある手すりを設置したいところでした。そこで、補助板を予め設置することで、昇降しやすい高さや位置に手すりを設置することができました。

「夜でも安心して昇り降りができます」というご感想をいただきました。



「劇的な」リフォームではないかも知れませんが、ピフォアー、アフター、さらにそのアフターまでお手伝いさせていただきます。

ローカルニュース 地域情報

◆今年も横須賀オクトーバーフェストin springがやってくる～！飲んで食べて踊っての10日間を楽しもう！

5月10日(金)～19日(日) ヴェルニー公園で昨年も大好評だったオクフェスが開催されます。



◆5月4日(土)にアンサンブルサミットin三笠公園が開催されます。

パーカッション(打楽器)を中心とした音楽で、観客を魅了します。

▶10:00～16:00

▶三笠公園野外ステージ

▶出演 Quer Swingar Vem Pra Cá (サンバチーム) / LA SEÑAS (ラセニャス)
(即興打楽器アンサンブル) / 横須賀総合高校吹奏楽部 ほか

(雨天決行・荒天中止)



横須賀ストーリーズ(自然災害と防災訓練) <13>

令和6年(2024)の年の初めは能登半島に起こった地震によりスタートとなりました。こうした自然災害について何処の地方公共団体でも「地域防災計画」を作成して災害が発生した時に対応しています。

さらに、市町村の間でも協定を結んで災害発生に対応するようにしています。横須賀市は静岡県沼津市との間で水道事業の相互応援協定がかなり以前に結ばれました。この協定は東海沖、神奈川県西部が災害危険区域と言われ結ばれたもので、両市の間で訓練を実施しようとの声が上がリ、昭和53年に実施することになりました。

災害の被災地の静岡県知事は自衛隊の出動を要請し、沼津市から横須賀市に対して飲料水の供給について救援要請がありました。横須賀市水道局(当時)で検討した結果、陸路では困難であるとの判断から海上自衛隊に協力を求め護衛艦を利用しての給水訓練となりました。横須賀水道局では走水の水源においてドラム缶に水を詰めて海岸に運び出し、漁船で小川町の新港埠頭に陸揚げして、待機していた給水車に移してパトカーの先導で船越の海上自衛隊の岸壁に運搬し護衛艦に積載して沼津市に向かうことになりました。私達横須賀市地域防災計画の救援物資班(当時)のメンバーは、午後4時に本庁舎を出発して水道局職員と合流して護衛艦に乗船することになりました。

そして、午後5時に出航すると日常の生活行動とは異なるため、強度の緊張感がズッシリと肩に掛かってきました。出航後まもなく、横須賀港港湾区域を離れて本船航路に入ります。夕刻になると本船航路はラッシュアワーのような状況で、船の操舵をする司令室の近くで見学すると、艦長は細心の注意を払いつつ指揮を執っていました。東京方面から南下してくる船の行列を観察しつつ、どの船の後ろに入れるかを指示していました。本船航路に入るまでは全神経を集中しつつ、その後、南下の流れの中に入ると乗組員の方々も緊張感から解放されたようで、我々も安堵しました。進行方向右手の猿島を過ぎ、横須賀市の住宅地の背後の山々が夕日を浴びて美しく、日常見慣れたロケーションとは別に海からの景観は感動的でした。観音崎の沖合を南下する頃から夕刻の闇が迫ってきました。夕食は乗務員と同じカレーライスでした。そして、食事の時間から車座で災害対応の意見が交わされ、昭和49年の七夕台風で被災者に対応したという同じ経験から意気投合し、士気が高まり、有意義な夕食会となりました。

午後10時過ぎに甲板に出ると満天の星空がとても美しく、乗組員の話ではこの城ヶ島沖で碇泊し、明朝には沼津市の千本松原の海岸に上陸することでした。私達は船内に戻りベットに入りました。寝台車よりも天井が低いベットでした。こうした環境で長期の航海は海上自衛官にとってさぞかし大変であろうと感じました。

慣れない環境の中で早めに目が覚め甲板に出ると、沼津の海岸は目の前にあり多くの市民が手を振り迎えてくれました。給水車を先頭に上陸し沼津市民の手で朝食の準備が開始されました。

私達の給水訓練は成功裏に終わりましたが、今回の能登半島地震では海岸の隆起で漁船の活動に支障を来しています。また関東大震災では平作川左岸の海岸も隆起しています。こうした地震に伴う地殻構造の変化も考えておかなければならないと思いました。(元横須賀市助役 井上吉隆)

よこすか文学館【101】



三浦半島に点在する文学碑や史的記念碑を実見し、作者やその作品の成立事情、碑の現状などについてご紹介します。

<吉野秀雄歌碑(佐島天神島)>

この島を北限とせる浜木綿の 草質(くさだち)といへど遅(たくま)し浜おもと
【短歌】 身を寄せ合ふがごとき茂りよ 佐島の磯にいのち根づきし

吉野秀雄(1902-1967)は昭和時代の著名な歌人です。1931年以降、鎌倉に在住し、作歌活動を続けました。歌碑の歌は、1954年7月の下旬、横須賀に住む知人から、佐島の浜木綿が咲き出したとの連絡を受けて、天神島を訪れた時の詠歌。浜木綿は西南日本の海岸に広く分布して、その北限は年平均気温15℃の等温線とほぼ一致し、横須賀は自生する浜木綿の北限です。歌碑近くには、「昭和五十二年市制施行七十周年記念 横須賀風物百選市の花 北限のはまゆう」の掲示があります。上掲2首目の「浜おもと」は浜木綿の植物学上の和名です。同歌の「草質」は、本草学(中国の薬物学)の用語で、草の性質をもつ植物を表す語ですが、歌のなかでは「木とは違って弱々しい草」という意味で、そのような浜おもとがしっかりと力強く根付いている様子を詠んでいます。

(洗足学園中学高等学校教諭 中島正二)

お問い合わせ

住まいに関する皆様の疑問や質問、お知らせしたいことや情報などがございましたら、ご連絡ください。郵送の停止を希望される場合や、バックナンバーを希望される場合など、ご遠慮なく、お申し出ください。

尚、ホームページより「すまい造りメール」創刊号からのバックナンバーをはじめ、追浜周辺の地図「Oppamap 2024」A-9歩ZONE版(永久保存版)を(Blog「Oppamap2023」より)ダウンロードすることができますので、是非ご活用ください。

皆様の「快適な暮らし」のヒントになることができましたら幸いです。

〒237-0068 神奈川県横須賀市追浜本町1-25 有限会社佐野工務店
TEL 046(865)4010 FAX 046(865)6139

すまい造り

検索